

## 『エントロピーの法則 —地球の環境破壊を救う英知—』

ジェレミー・リフキン著、竹内均訳／祥伝社

「石油は、あと30年で枯渇する」、オイルショックの年である1973年頃、盛んに言われていた言葉である。それから35年以上経っているが、石油は未だ枯渇していない。そればかりか当時発展途上国と呼ばれていた中国やインドなどの国々が経済発展し、大量のエネルギーを消費するようになってきている。当時から叫ばれてきた食料危機、エネルギー枯渇、環境破壊、地球温暖化などの緊急かつ重大な問題が未解決のまま取り残されている。一方、技術革新によって、それら諸問題を解決しようとする意欲的な取り組みも多数行われている。

この本は、私が大学1年生の時、物理化学の講義で習ったエントロピーという言葉と副題の「地球の環境破壊を救う英知」に惹かれて手にした書である。今まさに講義で受けている内容が、あたかも地球の環境破壊を解決する手段になるかのような希望をもって読み始めた。これから学ぶであろう知識を活用して、地球規模の問題に解決の糸口を与えるような仕事に取り組みたいと夢は膨らんだ。

しかし、読み始めてすぐに、技術革新がすべての問題を解決することができないと明言されてしまった。さらに、どんな技術でもエントロピーの法則には逆らえず、有益なエネルギーは希薄なエネルギーに変わってしまい、結果として、エントロピーを増大させてしまうことが、様々な事例を基に徹底して紹介されている。「なんだ技術革新も意味ないのか」と、まるで自己否定された気持ちになり、読むのをやめようかと考えたけれど、何か答えがあるのではないかと探して読み進めた。でもこの本には、環境破壊を救う答えは書かれていなかった。ただ、地球規模の問題を解決するための考え方のヒントを教えてくれていただけだった。

この本の著者ジェレミー・リフキンは、アメリカの経済学者で、本の内容も世界観や文明論、経済学なのだが、科学の世界では馴染みの深いエントロピーの法則を用いて説明している。その一方で、地球物理学の権威で科学雑誌ニュートンの編集長であった東大名誉教授竹内均が翻訳しているというとても面白い本である。

この本は、環境破壊など個人の努力では何も変わらないので自分には関係ないと思っている人や、エネルギー枯渇など閉塞感いっぱい希望を持ってない人、それらの問題から目を背けて考えることをしない人には、是非読んでもらいたい。この本を読んで、どんな未来を想像するのか？

---

## 執筆者紹介

松丸 幸司

産学融合トップランナー養成センター特任准教授。専門領域は、材料工学。

『書名』 著者名(翻訳者名) 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格  
『エントロピーの法則 改訂新版』 ジェレミー・リフキン著(竹内均) 祥伝社  
1990年 1,890円

[ブックガイド目次へ](#)